

學 報

Kobe College Bulletin

2025年 神戸女学院
創立150周年

150th
Bridging Generations

ISSN0389-164X

NO. 196

2022.12.20
神戸女学院
学報委員会

善い業を行いたい

中高部長 森谷 典史

新型コロナウイルス感染症への対応も3年目となると、対応策も一通りは理解、経験してきました。この原稿を書いている時点では、第7波が収束し、第8波がやってきそうだという状況です。もう3年間もコロナ対応をしながら過ごしてきたのだと改めて感じています。

10月29日、3年ぶりとなる愛校バザーが開催されました。初めに、バザーに参加して、お手伝いをしていただいた皆様にお礼申し上げます。また、様々な形で神戸女学院をお支えしてくださっているすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。本当に幸せな1日となり、実施できて良かったと感じています。

3年ぶりのバザーということもあり、また、経費節減の点から、グラウンドに大テントを張らずに、学院が保有するテントだけを設置し、例年グラウンドに出している中高部と大学のお店に関しては、中高部は葆光館2階の教室を利用し、大学は中庭やデフォレスト館を利用して、めぐみ会と中高部PTAの皆さんは体育館を利用しての実施となりました。

中高部では久しぶりに葆光館を利用して、初めてのコロナ対策をしての愛校バザーということとなりました。また、中学部の3学年は、誰も愛校バザーを経験していないということや、この3年間に本校にお勤めになった先生方も経験していないということで、どうなることかと思っていましたが、問題なく、実施することができました。

コロナ対策のために、葆光館を一方通行にし、20分ごとに200人の方を入場していただくように入場制限をしたことでスムーズな運営ができました。生徒の皆さんも張り切って、愛校バザー商品を販売



し、様々な人と触れ合うことができ、本当に楽しんでいました。

中高部では、校舎への入場制限をしていましたので、入場された方の数を正確に把握できました。なんと、2,909人の方々に来ていただきました。来校された方は、バザー商品を求めてこられた方もいらっしゃいましたが、多くは、卒業生の皆さん方や、これから神戸女学院への受験を希望する方々でした。

午前中は、私も入場者の列の整理をしていましたので、たくさんの卒業生とお話することができました。こんな仕事をしていますとか、こんな大学に通っていますとか、楽しく、また驚くような報告があり、とても幸せな気持ちになりました。また、たくさんの卒業生が、お子さんを連れてきてくれまし

たので、女の子には「何年生？この学校に来てね」と勧誘をしてしまいました。私に対するコメントで一番多かったのが、「先生立派になったなー」でした。たぶんしっかりしていないと思われていたのでしょうか、今もあまり変わりませんとお答えしましたが、たわいもない会話で、その生徒が在籍していたころの自分に返ることができ、懐かしい気持ちになりました。

神戸女学院は、たくさんの卒業生に愛され、支えられているのだと改めて感じることができ、感謝をする日となりました。来年は半年先の5月にバザーが予定されています。来年はもっとたくさんの卒業生で、校内が一杯になることを希望しています。

中高部では、150周年記念事業として、今年度は様々な準備を進めてきました。まずは中学部の4クラス化です。今までは、中学1年生だけが35人×4クラスでしたが、来年度より中学2年生、その翌年は中学3年生と、順次4クラス化を図る予定です。今のようにぎゅうぎゅう詰めの状態から、少し余裕がある状態に教室の中がなることで、参観日なども、保護者の方に教室に入っただき参観してもらえるものと考えています。また、先生方も、少しだけ余裕をもって生徒の皆さんに対応できると考えています。

また、遅ればせながら、来年度より、GIGAスクール構想の実現として、生徒のパソコン1人1台化を実施していきます。今までとは違った形の授業展開ができるように、準備を進めています。夏の研修会では、こんなことができると例を出し合い、方向性は見えたように感じています。来年度は、少し実験的な授業展開となるかもしれませんし、授業形態に大きな変化があるかもしれません。教師が一方的に教えるというスタイルから、共に学ぶ、または、個々の学習に応じた学習ができるようになれば良いと考えています。

設備の面では、学内の無線LANの整備、葆光館の空調設備の入れ替え、中学部のロッカーの入れ替え、アンジー・クルー記念館2階にトイレの設置など、より快適に過ごすことができるように改善されました。

本年度は、4月にあった校外での学校説明会において、コロナ感染症防止のため、キャンパスに入ることができていなかったため、受験までに学校に1

度は行きたいという声がたくさんありましたので、急きよ5月に小学6年生向けのキャンパス見学会を実施しました。219組、約430名の方が来校されました。また、11月には2回のキャンパス見学会を実施しました。合計で800組1,615人の人に来ていただきました。この人数は、小学6年生から小学1年生までの人数です。たくさんの方々に学校に来ていただくことができ、本当にうれしく感じました。見学会では、はじめに短い挨拶を持ち、私から学校の教育方針をお話しします。その中でしっかりと勉強することで、力を付けたあなたを待っている人がいます。社会がいます。神様には、将来のあなたに引き受けてもらいたいと考えている仕事を準備して待っていますと伝えていきます。そのあと大門チャプレンから、「神戸女学院の自由」と題して「自分を変えていくことができる学校である」という講話をいただき、そのあと、生徒による英語スピーチ、ギター部、コーラス部による演奏、そして学校の見学会を行いました。約1時間半の見学会でしたが、楽しんでいただけたと感じています。

エフェソの信徒への手紙2章の10節に「なぜなら、わたしたちは神につくられたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」とあります。神戸女学院を選択され、神戸女学院で学んだ皆さんは、この学院で過ごすうちに、または、卒業して、自身の人生を歩むうちに、意識することなく、私たちが神によってつくられたもので、私たちはその善い業を行うために生きていることにどこかで気が付くと思います。愛校バザーのためにお働きいただいた方々は、無償で神様の御名によって建てられたこの学院のために働くことに、幸せを感じたと思います。また、誰かのために損得を考えずに仕えることができたときに、神様が準備してくださった善い行いができたときに、本当に幸せを感じることができると思います。

私は、バザーや学校説明会などこの学院で働くことができていることに幸せを感じています。生徒学生の皆さんには、この学院の魅力を感じていただけたらと願っていますし、卒業生の皆さんもこの学院で学ぶことができたことに幸せを感じていると信じています。そのことをこれからたくさんの人に知っていただき、神戸女学院の魅力を発信していくことができたらと願っています。

KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のため設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のためにさまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange” という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回は、KCC-JEE 会長を 6 年間お務めくださいました Roberta Wollons 氏が寄稿してくださいました。]

Roberta Wollons

In September I stepped down after six years as President. It has been an exceptional time when we joyously celebrated our 100th anniversary and navigated two years of the Covid shut down. While we kept the programs going, travel was restricted, and some programs were delayed. We got through it, though, as strong as ever. We maintained our warm connection to Kobe College and to our friend and colleague Chancellor Ken Ii.

My deep appreciation and thanks go to the Board members of KCC-JEE, current and past, who have been such a great support over these past six years, and who have contributed so much to the ongoing success of our programs. And to the friends of KCC-JEE, who are our dedicated, ongoing, multi-generational family. It has been an honor and privilege to serve as President over these past six years and to serve on the board for over twenty-five.

It has also been my great pleasure to be of service to Kobe College. We have been partners for over a hundred years, with no end in sight. It is a remarkable relationship and, I believe, we are the oldest US/Japan organization in America. We have much to be proud of. We have dedicated ourselves to the education of young women and to international collaborations, and through our programs touch the hearts and minds of so many young people. We have been together through the tsunami and the pandemic, always with understanding and hope. I am grateful for your ongoing support and partnership. Kobe College is always in my heart, and I hope that the friendships we have made will endure well past my presidency.

It is my pleasure to congratulate Yuki Ohigashi, our new President. Yuki brings skills and talents that will be an asset to the Board, to Kobe College,

and to the many recipients of our programs. I know you will give her your support as you have supported me for the past six years.

With gratitude and blessings,

今年 9 月に私は 6 年間にわたる会長の任期を務め終え、退任しました。私たちが 100 周年を喜んで祝い、Covid による閉鎖から 2 年間を過ごしたのは、特別な時でした。プログラムを継続している間、旅行は制限され、一部のプログラムは遅延しました。しかし、私たちはこれまでと同じくらい力強く、それを乗り越えました。私たちは、神戸女学院と、友人であり同僚である飯 謙 院長との温かいつながりを維持してきました。

献身的で継続的な多世代にわたる家族である KCC-JEE の友人たちへ、そして、KCC-JEE の現在および過去の理事会メンバーに深く感謝の意を表します。そして、この 6 年間、会長を務め、25 年以上にわたって理事を務めたことは、名誉であり特別なことでした。

また、神戸女学院にお世話になったことを大変嬉しく思います。私たちは 100 年以上にわたってパートナーであり、終わりが見えません。これは驚くべき関係であり、アメリカで最も古い日米の組織であると信じています。私たちには誇りに思うことがたくさんあります。若い女性の教育と国際協力に専念しており、私たちのプログラムを通じて、多くの若者の心と心に触れ合っています。私たちは常に理解と希望を持って、津波とパンデミックを乗り越えてきました。皆様の継続的なサポートとパートナーシップに感謝いたします。神戸女学院はいつも私の心の中にあり、私たちが築いてきた友情がこれからもずっと続くことを願っています。

新会長、大東由季さんにお祝いの言葉を申し上げます。由季さんは、理事会、神戸女学院、そしてプログラムに関わる多くの人々へ宝となるスキルと才能をもたらします。過去 6 年間、私をサポートしてくださいましたように、皆さまも由季さんをサポートしてくださいと思います。

感謝と祝福を込めて

(訳：水野 多美)



From my visit to KC in May, 2022. With Chancellor Dr. Ken Ii.

愛校バザー報告

創立者タルカット先生のお誕生日の週を愛校週間と定め、その週末に開催される愛校バザーは1911年から皆さまのご奉仕により続けられていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により2か年連続で中止を余儀なくされました。今年度についても例年の日程から半年遅れとはなりましたが、秋晴れの空の下、3年半ぶりに待望の再開が叶いました。

午前10時、飯院長の開会宣言により開会、大勢のお客様がお買い物とお食事を楽しまれ、久しぶりに学院に活気が戻りました。今年は夕方に放送される報道ランナーの「今昔さんぽ」とテレビドラマ「名建築で昼食を～大阪編」に学院の建築が紹介されて話題を呼んだこともあり、この日を待ちわびていた同窓生・関係者に加え、一般の皆さまの関心も高く、開始早々から多くの来場者で賑わいました。美しいキャンパスのあちこちで往時を懐かしみながら、それぞれの内に益々愛校心の高まりを覚えるホームカミングデーとして、また、初めて神戸女学院を訪れたお客様におかれましても、その品格ある佇まいに感じ入っていただくことのできる貴重な機会として、良き一日となったようでございます。

こうして学院に連なる皆さまのご協力・ご支援により無事に愛校バザーが開催できましたことを、感謝をもってご報告申し上げます。来年度は、2023年5月27日(土)に開催予定でございますので、どうぞ覚えてお出ましく下さい。

(愛校バザー実行委員長)



藤棚前でお買物とご歓談を楽しまれるお客様

重要文化財 神戸女学院 特別見学会

感染拡大により過去2年間開催が見合わされてきました「重要文化財 神戸女学院」の特別見学会、今年は晴天にも恵まれて10月1日に開催され、600名以上の方にご参加いただきました。当日のプログラムとして、先ずは関西学院前院長で今年度から神戸女学院監事の田淵結氏による講演会「西宮市岡田山～上ヶ原：ヴォーリズヒルの景観」が講堂で行われ、共にヴォーリズ作品である関西学院のスパニッシュミッション様式と神戸女学院のサザンメデタレニアン式を対比させ、各々の特徴を分かりやすく解説していただきました。ヴォーリズの言葉「その最も重要な機能の一つは、永年の間に人々の心の内側に洗練された趣味とともに美の観念を啓発すること」と合わせて、「その家庭の室内装飾を見ればそれが神戸女学院の同窓生であると言い得る様になるべきである。」と続けられて一同、思わず苦笑い、最後にデフォレスト先生の「神ご自身の精神の創造物ならんと望む程高い理想…この理想に向かって進んでまいりましょう。」というお言葉の後、「このキャンパスから育まれるべき人格への熱い期待と希望！」とエールを送っていただき、勇気と自信を与えていただきました。続いて学生ツアー・マイスターにご案内いただき、皆さま、混乱もなく順にご見学いただき、美しい学び舎に感じ入っていただけたご様子でした。ご協力賜りました皆さまに感謝をこめてご報告いたします。

(総務部長)



スライドの前で解説される田淵結監事

創立150周年を記念して 「ユニバーサルマナープログラム」を導入

学校法人神戸女学院は、2025年に創立150周年を迎えます。それを記念して、永久標語「愛神愛隣」の精神を体現し、心のバリアフリーを実践できる人の育成に向けて、学生・生徒参加型企画「ユニバーサルマナープログラム」を実施します。全新入生を対象とする規模での実施は、西日本の教育機関では初めての取り組みとなります。

本プログラムでは、「ユニバーサルマナー」を身につけた学生・生徒を社会に送り出し、様々な場所で活動することを目指しています。なお「ユニバーサルマナー」とは、高齢者や障がい者、性的マイノリティ、外国人など、自分とは異なる多様なバックグラウンドを持つ人の視点に立った行動や配慮を行うために必要な心構えや姿勢のことです。「ユニバーサルマナー」を身につけるために開発されたのが「ユニバーサルマナー検定」であり、本プログラムはこの検定を学生・生徒に受けてもらうことが出発点となります。2023年度から、大学1年生と高等学部1年生の受検を必須とします。

今後の展開として、地域貢献の観点から、西宮市との連携に向けた協議を行っています。具体的には、同市が運営する各種施設やイベント等で「ユニバーサルマナー検定」に合格した学生・生徒が活動することを想定しています。

2023年度からの本格実施に先がけて、まずは日頃からボランティア活動に取り組んでいる大学生等に対して学内での検定講座を11月5日に実施しました。当日は約50名の大学生と、約10名の職員が参加しました。

(神戸女学院150周年事務局)



検定講座は講義とワークで構成

学院リトリート

暑さも本番を迎えた中、7月22日に学院リトリートが行われました。学院リトリートとは、学院の教職員を対象に、キリスト教主義や建学の精神について学ぶことを目的としたプログラムです。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3年ぶりの開催となりました。

今年度は、日本基督教団三田教会牧師であり元宮城学院学院長の嶋田順好先生をお招きし、「キリスト教女子教育に関わるなかで気づかされたこと—初めに言があった—」と題してご講演いただきました。冒頭ではまず宮城学院の歴史やデフォレスト家について、続いて中学・高校・大学それぞれの校風を活かした改革について、具体的な内容もあわせてご説明いただきました。

続いて日本のジェンダー・ギャップの大きさを取り上げつつ、キリスト教女子教育の可能性についてお話いただきました。そして、先生が院長として、中学・高等学校の校長として直面された様々な苦悩や葛藤に触れつつ、目の前にいる相手に寄り添った言葉をかける大切さについて、聖書の言葉や有島武郎『一房の葡萄』などをご紹介いただきながら丁寧に語られました。

講演ののちには質疑応答の時間を持ちました。短い時間ではありましたが、本学院に連なる教職員が、それぞれに与えられた使命を見つめ直す機会を与えられましたことに感謝します。

日 時：2022年7月22日(金) 14:00~16:00

場 所：LA2-45教室

参 加 者：90名

講 演：嶋田 順好 氏（日本基督教団三田教会牧師）

開会礼拝：大門 光歩

全体司会：中野 敬一

(チャプレン室)



学院リトリートの様子

宗教強調週間 プログラム報告 (11月7日～11日)

<チャペルアワー・アッセンブリアワー>

- 11月7日(月) 学院チャプレン 中野 敬一
 11月8日(火) 「『〇〇問題』が問題だ
 —自分はどこに立つ?」
 日本基督教団高崎南教会牧師、
 同志社大学名誉教授 原 誠
- 11月9日(水) 「和解のミニストリー
 ～私をアジア学院に惹きつけるもの」
 学校法人アジア学院
 アジア農村指導者養成専門学校校長
 荒川 朋子
- 11月10日(木) 「愛の印章」
 アシュラムセンター主幹牧師、
 日本基督教団教師 榎本 恵
- 11月11日(金) 「記念賞授与式」
 引き続き講演「研究と出会い
 —“small world” と “AR”」
 本学名誉教授 浜下 昌宏

8日～10日のチャペルアワーは、3年ぶりに対面を中心とした方法を守ることができました。

8日の教職員礼拝では、原誠氏に「実を結ぶ—教育の共同体」と題してメッセージをいただき、続けて永年在職者表彰式が行われました。9日の学生寮夕拝では日本基督教団伊丹教会牧師の山本一先生にお話しいただきました。期間中、毎朝8時から早天祈祷会がまもられ、学生・生徒による奨励や奏楽のご奉仕をいただきました。ご多忙の中、多くの方のお支えのもと全てのプログラムを終了いたしました。深く感謝いたします。

(チャプレン室)



チャペルアワーの様子

<中高部礼拝>

11月7日から宗教強調週間を、久しぶりに従来の形で守ることができました。

早天祈祷会では、8日と10日に中高部の生徒が奨励を担当し、毎朝の早朝礼拝に出席しながら考えてきたことや気づかされたことが話されました。1日の初め、礼拝よりも更に早い時間にささげられてきた友人や家族のための祈りが、中高部の歩みを支えているのだと改めて思われる機会となりました。また、コロナ禍で中断されていた有志生徒による連祷を再開できたことも大きな喜びでした。

礼拝は7日中野敬一チャプレン、8日原誠氏、9日荒川朋子氏、10日榎本恵氏、11日奥田知志氏から、それぞれに力強いメッセージを語っていただきました。

放課後には、「隣人が見えていますか」を主題として、中高部リベラルアーツ・プログラム「KCH 白熱教室」を開催しました。7日は、神戸女学院大学文学部総合文化学科の奥野佐矢子氏、景山佳代子氏を講師としてお招きし、「さびしさについて」をテーマに語り合いました。先生方の導きによって、語らいを通して学ぶ喜びに気づかされる機会となりました。

9日は、「ジョガトーク!!」を開催しました。S役員会の主導で、学年を超えて、また教員を交えての楽しい語らいの時が与えられました。礼拝や行事とは違って、先輩たちと打ち解けて話す良い機会となりました。

10日は、奥田知志牧師をお招きしました。「『助けて』と言おう」「人間の強さは、1人でがんばることではない。他者と共に行きることなのだ」と語りかけてくださいました。質疑応答の時間には親身に向き合う姿で、真実に出会うということを教えてくださったと感じています。「講演もいけれど、こういう対話の機会がいいね」と奥田先生も話しておられましたが、参加した生徒たちにとっても、恵まれた学びの機会になったと感じています。

11日は2人の卒業生をお招きしました。お二人の中高部時代、大学時代の経験や就職活動の経験を聞かせていただいた後に、お二人を囲んでの質疑応答の時間を持ちました。一つひとつの質問に、誠実に耳を傾け、自らの経験を交えてお答えくださいました。

神戸女学院で学ぶ喜びや意味を改めて確かめ合う機会が与えられた1週間となりました。

(中高部チャプレン)

<留学報告>

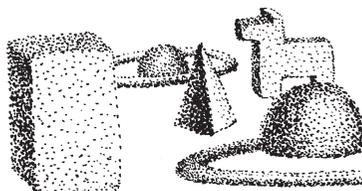
ワシントン大学への留学報告

古村 敏明

2021年8月から1年間、アメリカ合衆国シアトル市にあるワシントン大学 (University of Washington) へ海外留学をしました。出発当時は、新型コロナウイルスによるパンデミックが2年目に入りつつも収束の兆しが見えず、国内外の移動や大学の活動が大きく制限されるという状況下での渡航となりました。そして、現地到着後の2021年秋から2022年冬にかけてオミクロン株が出現し感染がさらに拡大した結果、アメリカだけでも死者は百万人を超えました。ようやく社会状況が落ち着き始めたのは、2022年春頃でした。

追悼や悲嘆、共感や共感疲れといった、感情の文学を研究する者としては、平時ではない、極限状態に近い社会を実際に目撃し体験することとなった今回の留学は、大きな意味を持ちました。この体験は、私の思考に強い影響を与え続けると思います。パンデミック初期に執筆を終え、2021年に日本アメリカ文学会賞を受賞した著書 (題: *Lost Loss in American Elegiac Poetry*) や、Modern Language Association、日本アメリカ文学会などで予定されている研究発表、「倫理的共感」について考える科研費課題の進行も、この2～3年間の体験が、その思想基盤の一部となっています。

パンデミックで世界が大きく変わった状況にも関わらず留学をさせていただいたことを、心より御礼申し上げます。



マンザナー日系人収容所の跡地にて

史料室の窓(58)

めぐみ会、130年のあゆみ

— 活動は母校支援と共に —

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

神戸女学院は今年2022年、創立147年を迎えました。この長い歴史を2つの団体が支えてきました。一つはKobe College Corporation (KCC 現・Kobe College Corporation - Japan Education Exchange)、そしてもう一つはめぐみ会です。KCCは神戸女学院のキャンパス移転を支援するために1920年にアメリカで作られた組織で、キャンパス移転後もアメリカと日本の懸け橋となり、現在もその活動を続けています。めぐみ会は1892年に設立された神戸女学院の同窓会組織で、正式名称を公益社団法人神戸女学院めぐみ会といいます。めぐみ会が公益社団法人と認定されたのは2010年12月24日、同窓会組織としては初の認定でした。めぐみ会は神戸女学院の同窓会ではありませんが、公益目的の事業も行う独立した法人組織なのです。定款には「この法人は、キリスト教信仰に基づく学校法人神戸女学院の立学の精神を重んじ、その教育・研究の助成、学術・文化及び教育の振興・普及、国際相互理解の促進を通じて、社会に貢献することを目的とする。」(第3条)とあります。

めぐみ会は今から130年前の1892年6月25日に設立されました(今年設立130周年になります)。その日は学校で卒業式が行われていて、同窓生も式に参加していました。この時、同窓生十数名の発起によって同窓会を組織することになり、卒業式後に第1回同窓会が開かれました。

同窓会設立の目的は初めから、会員の交誼を厚くするよりも学校の拡張充実に図ることでした。早くから学校の発展を支える基本金の必要性に着目し、1906年に基本金募集を始めました。その趣意にはこうあります。「[略] いつまでも我が母院をして斯界の先導者たらしめん事は同窓会の義務にして又快事には候はずや[略] 精神的は勿論なれど事物発展の後には常に物質の勢力を見ざる事なし[略] 教授其の人を得ざる可からず訓練の統一を計らざる可らず教具の具備を致さざるべからず[略] 物質の欠乏は常に良好なる技能を逸し居候何を申しても先立つものは山吹の黄金これなくてはよしあしの難波の事も埒り不申候へば茲に我が同窓会は奮って基本金募集の事を企て申候[略]」(『めぐみ』1906年12月発行第41号 p.22)

神戸女学院はミッションスクールとして海外の伝道団体から補助金を受け取って運営されてきましたが、それだけに頼るのではなく、自分たちで集めた



同窓生の集いの場・めぐみ会館

お金によって学校の発展を支えようと考えたのです。この基本金募集活動は後援会結成へと発展します。1918年、財団法人神戸女学院後援会が設立され、その後、後援会が集めた資金によってキャンパス移転のための土地が購入され、岡田山へのキャンパス移転へとつながっていきます。

同窓会本体は1929年社団法人神戸女学院同窓会となり、2000年に社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会と改称、2010年にはめぐみ会の事業が公益に資すると認められ、公益社団法人への移行が認定されました。現在の名称・公益社団法人神戸女学院めぐみ会と短くなったのは2014年からです。

同窓会の名称「めぐみ会」の「めぐみ」という言葉には次のような意味が込められています。「私たちが生命を与えられ毎日生かされていることが大きな『めぐみ』であり、神様のあらゆる『めぐみ』に対して感謝し、常にそのことを覚えて行動し、応えていこう」(『めぐみ』2011年7月発行第100号 p.26)

ある同窓会長の言葉です。「[略] 私共一人一人では到達し得ない此等の仕事をお互ひに親しく手を携へて慰み合ひ、勵まし合ふうちに成し得ることが出来たらどんなに楽しく幸せだらうと思ひます。同窓会に集まりませう。同窓会を育てませう。同窓会に集まるのが即ち各自の進歩になり、母校のお役に立ち、又世の爲にもなることを意味するような集ひに我が神戸女学院同窓会を會員一人一人の自覺と責任において育てようではありませんか。」(『めぐみ』1948年9月発行第32号 p.20)

<事務室探訪>

資産を持たない経理課と、課の巡礼の年

経理課の業務は、各種出納に関する業務や予算編成業務、固定資産の管理業務など多岐にわたります。今回は固定資産の管理についてご紹介します。

本学の「固定資産台帳」という台帳には1万点を超える資産が登録されています（図書を除く）。

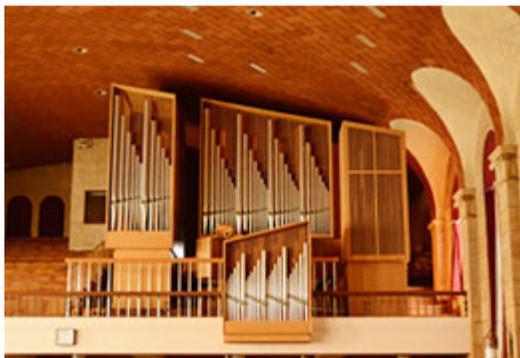
記録に残る最も古い資産（動産）は理学館S-04教室にある調理台（昭和39年取得）、最も高額な資産（動産）は講堂2階のパイプオルガン（昭和49年設置、取得価額はヒミツ）となっております。先人たちが大切に維持管理してこられた資産は、およそ半世紀を経た今も大切に受け継がせていただいております。

固定資産台帳を元に資産管理部署別にみると、設備を取り扱う施設課が金額・点数共に最も多く、経理課ではあまり資産を多く保有しておりません。意外なところでは、ご寄付をいただきました絵画などが経理課の管轄となっております。

固定資産については、3年に1度の周期で、各部署に現物確認をお願いするとともに、任意で各課を訪問させていただき、資産の現物確認をさせていただいております。これまで学院に貢献してくれた資産への敬意を込め、私はこの現物確認業務を密かに「巡礼」と呼んでいます。

実際の現物確認業務は、残念ながらフラッツ・リストの「巡礼の年」のように情感あふれることはなく、実に地味な作業ではございますが、経理課職員が皆様の部署に伺う「巡礼の年」に該当しましたら、現物確認にご協力をいただけましたら幸いです。

（経理課）



重厚感のあるパイプオルガン（HPより）

キャリアセンターの紹介

キャリアセンターは学生一人ひとりが納得のいく進路選択ができるようにサポートする部署です。年間130回におよぶ「キャリアサポートプログラム」はキャリア支援の核です。大学1年生には学生生活の過ごし方を含めた「キャリアデザイン」のセミナーを開催。就職活動が本格化する大学3年生・大学院1年生には、就職ガイダンスやSPI模擬試験、模擬面接講座など、座学と実践を織り交ぜた講座を展開しています。また、「知らない世界を、知っている世界に変えていく」をスローガンに、業界や企業を知る機会を創出しています。例えば2月の「企業研究セミナー」には「神戸女学院大学の学生を採用したい企業」が数多く参加されるため、一社でも多くのセミナーに参加することをおすすめしています。さらに、個別支援として大学3年生・4年生と大学院生にはキャリアカウンセラーによる個別面談を行っています。応募書類の添削や面接練習など、就職活動全般の相談に幅広く対応し、一人ひとりに寄り添ったサポートをしています。そして、キャリアセンター資料室には、企業の資料や、SPI対策本、求人票など、就職活動に関するあらゆる情報が詰まっています。中でも就職活動を終えた内定者による「就職活動の軌跡」と「就職活動報告書」が一番人気の資料であり、本学の宝です。年々早期化する就職活動にも安心して臨めるよう、キャリアセンターでは引き続き、きめ細やかなサポートをまいります。

（キャリアセンター）



「本学の宝」である先輩方の貴重な資料

大学報告

奥村ゼミ生考案メニューでSDGsに貢献

国連で定められた「SDGs」と聞くと、「国連で採択された目標」、「地球規模の取り組み」と、少し身構えてしまうが、私たちの日常生活の中で簡単に取り入れられるものもある。奥村ゼミでは、グローバルな目標であるSDGsを身近な問題に結び付けて行動を起こすことを目標として、本年度からゼミ生がいろいろな活動に取り組み始めている。

その一環として、ゼミ生の2名がSDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」に取り組む中で、大学生のうちから健康を意識した食生活の重要性を感じ、食堂メニューに健康食を提案した。専門家である人間科学部環境・バイオサイエンス学科の高岡教授のご協力を得て、ふたりが考えた身体によいメニューは「美肌丼」と「サラダボウル」の2種類。「バランスの整った健康的な食生活がメンタルヘルスも整える」と実体験からも学び、今回の健康食の提案に至った。食堂支配人が快く引き受けてくださって、メニューとして提供が決まった。7月21日は「美肌丼」、27日は「サラダボウル」が、それぞれ限定50食で実際のメニューに登場したのも喜ばしい。『大学生の食生活の乱れ』という問題意識から行動を起こして、具体的な成果を出した学生たちを、高く評価したい。本プロジェクトを通して、SDGsを身近なものとして考えるようにしていきたい。

(英文学科准教授 奥村 キャサリン)



食堂で「美肌丼」をいただく考案者2名と、指導教員の奥村(中)

朝日親子と子の自然環境教室を本学で開催

環境・バイオサイエンス学科の保全生態学ゼミでは、森や水辺でくらす生物の生態を調べながら、自然環境を保全するための方法について研究しています。SDGsの達成にもつながるこれらの研究を社会に還元するために、研究室では、子どもたちの環境問題に対する理解を深めるための環境教育に関する取り組みも大切にしています。その一環として、今年の7月に、神戸女学院大学のキャンパス内で、体験を通して自然を学ぶ「朝日親子と子の自然環境教室」(NPO法人シニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日学生新聞社後援)を、私とゼミ生たちがスタッフとなって行いました。

当日は20組を越える親子に参加いただき、キャンパス内の森や庭園で昆虫を採集したり、森の腐葉土にすむトビムシなどの小さな土壤動物たちを顕微鏡で観察したりしました。土壤動物の多くは、森の落ち葉を分解し、再び植物の栄養にするという大切な役割の一端を担っています。この話を、最後の振り返りの時間に説明しつつ、私たちがすむ陸上の変化がやがて海の環境に影響することや、どうすれば自然を良くしながら、人も楽しく暮らし続けることができるのかを皆で考えました。

参加者アンケートを読んだところ、土の中にたくさんの生き物がくらしていることへの驚きや、人の生活が離れた海にまで影響することへの気づきなど、環境について様々なことを感じ、そして学んでいただけたようでした。

(環境・バイオサイエンス学科教授 高橋 大輔)



キャンパスの森で生き物を観察

図書館本館展示「松岡享子展」開催について

10月12日から12月20日にかけて、図書館本館2階閲覧室にて、「松岡享子展—神戸女学院で過ごした日々を中心に—」を開催しました。1月にご逝去された松岡先生への衷心の気持ちを込めて、母校に「お里帰り」していただくような展示をという思いで企画を進めました。また、子どもと子どもの本のために尽くされた松岡先生の生涯を紹介することは、制限の多いコロナ禍での学生生活を送った在学生にも伝わるものがあるはずだと考えました。

松岡先生は1953年に英文学科に入学され、英国児童文学についての卒業論文を執筆されました。その過程で、関連著書の作者などのつながりから、後の松岡先生の人生に深く関わることになる“library”ということばが刻み込まれたと、著書『子どもと本』（岩波書店、2015）などで述べられています。卒業後は図書館員、翻訳家、作家、児童文学者として、数々の業績をのこされました。令和3年度文化功労者選出時に、病床から届けられた本学学長・院長宛のお手紙には、「母校の名誉にもなるのでは」という思いからその認定を受けることにしたこと、また、認定理由となったユネスコ等での国際的な活躍のもととなったのが、本学でしっかりした英語力を身につけたことだと綴っておられます。

開催に際し、あたたかい気持ちとともに惜しみないご協力をくださった関係者のみなさまと、学内関係者のみなさまに心より感謝いたします。

(図書館)



展示の様子

2024年度国際学部・心理学部設置構想中

2025年に創立150周年を迎えるにあたり、大学のミッションステートメントおよび教育の3つの柱にある国際理解の精神およびリベラルアーツ教育をより明示化するため、2024年度より現在の文学部英文学科を国際学部とし、英語学科およびグローバル・スタディーズ学科を置き、なおかつ人間科学部心理・行動科学科を心理学部心理学科とすることを現在構想・計画している。これは、「リベラルアーツ」という傘に埋没しない形で大学の持つ高度な専門教育をより明示化することで、リベラルアーツ教育をさらに活性化することが大きな目的である。

それと同時に、今回の計画は大学のもう一つの教育の柱、キリスト教主義、また大学の学院標語「愛神愛隣」の精神に基づく、高い共感性、時代に即応した国際理解の精神、高度な専門知識を兼ね備えた女性の育成を今後も継続するのである、というメッセージも込められている。現在、2024年度初頭までに文部科学省に設置の届出申請を行うべく、全学をあげて努めているところである。

これは現行の文学部英文学科および人間科学部心理・行動科学科が大学の教育目標に則した高度な教育を実現できているからこそ可能であると判断できたことであり、現在在学中の両学科学生、またすべての在学生・卒業生、さらには大学・学院にとっても発展的な変革となることを信じている。

(副学長・教務部長 立石 浩一)



新学部設置広報 HP

<派遣留学報告>

徳成女子大学

韓国留学を通して経験した貴重な体験

文学部 英文学科 4年生

私は2022年3月から6月の間、大学の派遣留学制度を利用し徳成女子大学に留学しました。韓国に到着した際、国内は大統領選の真っただ中でした。街を歩いていてもテレビを見ても大統領選の話が耳に入り、国民、特に若者たちの政治への熱い関心を感じました。

留学先の徳成女子大学に着いてからは寮に入居し、バディの韓国学生に大学を案内してもらいました。留学生には必ず現地での生活をサポートしてくれる韓国人の学生バディがきます。バディのおかげで大学の設備なども詳しく知ることができ、なにより一緒にご飯を食べたり、休日にはお出かけしたりなど共に過ごす時間が多かったので知らないことだらけの海外生活の中でとても心強かったです。

大学では英文学科の専攻科目である2つの授業を履修しました。どちらの授業も現在のグローバル社会で必要とされる世界共通語としての英語コミュニケーション法を考察する内容でした。韓国学生と同じ視点から英語の知識を学ぶことができ、新鮮な環境の中で新たな発見がたくさんありました。学内のキャンパスは緑が多く落ち着いた場所に位置しており、大学や寮の周りは静かで小さな川が流れる綺麗な場所でした。その分勉学に集中して取り組むことができ、メリハリのある留学生活となりました。



橋から見たソウルのハンガン

＜夏期語学研修報告＞

カナダ・ヨーク大学

カナダ語学研修を通して

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 4年生

長いようで短い19日間の語学研修を通して、私は日本とカナダのそれぞれの違いや良さを実感しました。そして、知らない土地で生活することの大変さと新たな価値観に触れ様々な人と出会う楽しさを学びました。

カナダと日本の一番の違いは雰囲気です。カナダの街は音楽で溢れています。そして、一人一人が独自の世界観を持っておりその時々瞬間や雰囲気を常に楽しんでいるようでした。店員と客との関係性も異なります。カナダでは店員と客は対等で、店員側も普通に客に話しかけ会話を楽しんでいました。

そしてカナダでは寮の電子レンジや電気ケトル、ウォーターサーバー、トイレのドア、バスの乗車システムが故障している場面に何度も遭遇しました。公共交通機関も時間通りに来なかったり、落とし物を拾っても拾った人のものになるという場面にも出くわしました。

カナダでの生活を通して日本の当たり前が海外の当たり前ではないということ、日本の良さは何気ないところに多く存在していたことを実感しました。

当たり前が異なるのと同じように、生まれ育ってきた環境によって価値観や考え方は人それぞれに異なります。そのことを理解したうえで、今後も色々な人と接していきたいです。

今後社会に出ても今回の語学研修で経験したように違いやそれぞれの良さ、考え方を受け入れ認め、助け合っていけるような関係性を築いていきたいと考えています。



最終日、現地学生と皆で記念撮影

昭和ポストン

新しい私との出会い

文学部 英文学科 1年生

私は約1か月間アメリカにある昭和ポストンでホスピタリティについて学びました。授業を通してJALとポストンハーバーホテルを見学させていただきました。特に印象に残っているJALでのフォーカスグループでは、ホスピタリティにおける日本とアメリカの違いを学ぶことができたため今回のポストン研修の中で最も充実したプログラムとなりました。

ポストン研修での自由時間の際にも自分の成長を感じた瞬間がありました。それは、会話の内容の質です。ポストンに着いた初めのころは出会った人に自己紹介をするのが精一杯でしたが、後半になると、社会問題や環境問題、政治について話し合うことができました。ポストンでは、電車の中やバスを待つ間に隣に座った見知らぬ人も話し合うほど社会に関心のある人がたくさんいたため、私もポストン研修の後半になると英語のアウトプットに慣れ、自然に英語を話すことができたように感じます。

今回のポストン研修は私にとって非常に価値のある経験となりました。1か月間、毎日英語に触れることで、「私ってこんなに英語で話せるんだ!」という自分の成長を実感しました。このような素晴らしい学びの機会をいただけたことに心からお礼申し上げます。そしてなにより、語学研修参加に背中を押してくれた両親に感謝しています。ポストンで得た学びを忘れずに、これからも勉強を続けていきたいです。



ハーバード大学図書館前にて

<受入留学生報告>**留学生生活の思い出**

イーストアングリア大学交換留学生

私は2021年度後期からの留学生で、後期はオンラインで授業を受けていました。4月に日本に到着した時は、「やっと日本に来れた」とすごく嬉しかったです。そして、神戸女学院大学のキャンパスを初めて見た時、すごく驚きました。校舎がとてもヨーロッパの感じがしました。4月だったので桜もあって、神戸女学院大学は西洋の文化と日本の文化が混ざっていると思いました。

私は日本人々とはとても親切だと思います。日本の人は私が困っているといつも「大丈夫？」と訊いてくれて助けてくれました。私は、2018年に東京に留学をしていて、関西の人は東京の人よりもとても優しくて驚きました。日本でたくさんの人に助けってもらって、私も「困っている人がいたら助けたい」と思いました。イギリスの人は外国からの人にあまり優しくないとと思うので、イギリスに帰国したら、困っている外国の人を手助けしたいと思います。

私はイタリア語と通訳の授業を受けていました。日本語のネイティブスピーカーではないので、授業中に日本語で答える時、少し時間がかかったけれど、先生方は待ってくれて「とても優しいな」と思いました。また、クラスメートと仲良くなって授業後に沢山お話をしてとても楽しかったです。神戸女学院大学の授業は少人数で、先生との距離も近いし、クラスメートとも仲良くなれるし、とても良かったです。

国際交流センターの方々和我的2人のバディには本当に感謝しています。オンラインで授業を受けている時も、職員の方々が頻りに連絡をくれて嬉しかったです。来日後もお世話になりました。そして、バディの2人とは、会う前はとても緊張していましたが、会ってみるととても優しく面白くて、すぐに安心しました。一緒に奈良公園に行ったり、ケーキを作ったり、カラオケに行ったりとても沢山の楽しい思い出があります。イギリスに帰国後も連絡を取り合って、ずっとお友達でいたい。そしてまた再会したいです。

神戸女学院で過ごした時間

淑明女子大学交換留学生

こんにちは。私は韓国から来た留学生です。まず、いつもお世話をしてくださった国際交流センターの先生、日本語と日本について様々なことを教えてくださいました大学の先生、優しく色々手伝ってくれたバディの皆様、誠にありがとうございます。私が留学を準備していた今年の2月頃、コロナ感染防止のための入国禁止政策により、日本に行けるかどうか確信できなかったため、私は半分くらい留学のことを諦めていました。ですが、奇跡的に3月1日からちょうど入国ができて、すごく嬉しかったです。不安な気持ちで入国の準備をし、日本に着いてから8日間の隔離の後、神戸女学院大学に着いた時には、桜が綺麗に咲いていたので、私はとても幸せでした。日本に来て、私には一生忘れられない、とても大切な思い出がたくさんできました。京都の嵐山で美しいシダレザクラを見て、団子を食べたことや、なごなた授業で初めて袴を着たこと、楽しかった七夕パーティーのこと、寮でたこ焼きを作って食べたことなど。他にも楽しかった思い出がたくさんあります。私は神戸女学院大学に来られて本当に良かったといつも思います。ここで出会った人々は皆優しい人ばかりでした。また、友人と離れたくないので、半年ではなく、1年の留学だったら良かったと、いつも思います。そして、私は大学を卒業したらまた日本に来て、働きたいという夢ができました。最後に、神戸女学院大学の皆さん、本当にありがとうございました。私の留学は今月終わりますが、皆さんとはいつかまた会えると思います。その日まで皆元気に、頑張りましょう。

留学で得たこと

広東外語外貿大学交換留学生

私は中国からの留学生です。神戸女学院大学で4ヶ月の留学期間を過ごしました。留学中、神戸女学院大学の職員さんたちとパディーさん、友人に助けられました。先生方には熱心に授業をしていただきありがとうございます。神戸女学院大学に到着した日に、満開の桜を見ました。満開の桜を見て、留学生活に対して期待したことを今でも覚えています。コロナのために、日本に行けないのではないかと不安や心配は、その桜を見ているとすっかり消えてしまいました。この4ヶ月の間に私はいろいろなところに行きました。私は前から、日本の伝統的な建物が好きです。だから、姫路城に行くととても嬉しかったです。また、鯉のぼりも見かけたので、こどもの日に大阪に行って、空を泳いでいる何百匹もの鯉のぼりを見て、すごく感動しました。日本で和食を食べることも私にとっては、新しい経験でした。この4ヶ月の留学期間を通して、いろいろなことを勉強しました。留学生向けの日本文化の授業で茶道、いけばな、能楽、文楽、折り紙などを体験しました。また、日本現代事情という授業で日本社会の現状に対して、深い理解を得ました。神戸税関の職員の方々がくださった授業も印象に残っています。日本語の文法と作文の授業も大変役に立ちました。留学生向けの授業以外に、日本人の学生と一緒に語学、文学など、様々な授業を受けました。授業中にディスカッションの時間もあり、日本人の友人ができますし、みんなで意見を交換したこともよかったです。このようなことから、私の日本語能力も高まりました。将来は立派な通訳になりたいため、これからもがんばります。今回の留学はきっと私にとっては、貴重な経験だと思います。

音楽学部夏期講習会報告

2022年度音楽学部夏期講習会は、7月29日～8月1日（舞踊は29日～30日）にかけて開催され、合計198名（音楽159名、舞踊39名）の受講生が参加しました。

【音楽】共通科目の講座として、今年度は「聴音」と「新曲」（いずれも入門か実践のクラスを選択）を開講、および31日に開催されたオープンキャンパスの模擬授業「楽典」を聴講できるよう設定しました。これらに実技レッスンを加え、その合間に進学相談会とミニコンサートを各2回ずつ盛り込む充実した内容で、例年にもまして多く集まった受講生には音楽学部の概要を直接感じ取っていただく絶好の機会になったことと思います。

【舞踊】では実技レッスンに加えて、島崎徹教授によるアドバイスタイム、相談会、在学生によるショート・パフォーマンスが行われました。

夏期講習会での舞踊専攻レッスンの開講は、はからずも今年度が最後となりました。講習会を終えた今、個人的な感慨を述べることをお許しいただければ、同専攻の開設にいささかなりとも関与し、第一期生を迎えた日を覚える者として、寂しさも感じた講習会でした。

(音楽学部事務長)



島崎徹教授の舞踊実技レッスン

夏期インターンシップ実施報告

本学では、毎年、多くの企業や自治体・団体のご協力を得て、「学内募集インターンシップ」という形で学生に就業体験を行う機会を提供しています。参加時期は、夏休み期間中が主となります。

ひと口にインターンシッププログラムと言っても、営業同行のような形で実際に就業体験をするプログラムから、グループワークなどを通じ課題に取り組み、プレゼンテーションを行うプログラムなど、多種多様なプログラムがあります。学生は、自分の希望業界や体験したいプログラムに応じて、各種のインターンシップに参加します。

新型コロナウイルス感染拡大は、今年の夏も収束の兆しが見えず、先の見えない不安な状況が続いていましたが、企業側も試行錯誤の中、学生が安全第一で実施できるようご対応くださいました。

今夏のインターンシップでは、以下の企業、自治体・団体の皆様のお世話になりました。記して、心より感謝の意を表します（かっこ内は受け入れてくださった本学学生数）。

関西環境管理技術センター（2名）、名鉄観光サービス（2名）、ホンダカーズ兵庫（3名）、大阪シティ信用金庫（1名）、JAL スカイ大阪（2名）、河合楽器製作所（3名）、姫路経営者協会／播州信用金庫（2名）／佐藤精機（1名）／姫路ケーブルテレビ（1名）、兵庫県経営者協会／兵庫県庁（2名）、福井県経営者協会／大津屋（1名）、和歌山県経営者協会／紀陽銀行（1名）、水城会計事務所（1名）、キューブ建築研究所（1名）、大阪障害者職業センター（1名）、大阪府（1名）、福井県庁（1名）。

インターンシップは実際の仕事や職場の状況を知り、職業選択について深く考える大切な機会となります。近年では、インターンシップに参加した学生が、本選考において何らかの優遇措置を受けるケースも増加しているため、学生の意識も年々高まってきています。

本選考に向けて準備をしている学生にとって有意義な時間を提供できたこと、そして感染者を出すことなく無事に「学内募集インターンシップ」による派遣を行えたことに心から感謝申し上げます。

（キャリアセンター）

インターンシップ参加報告

文学部 英文学科 3年生

私は、8月18日～19日の2日間でJAL スカイ大阪のインターンシップに参加しました。

短い期間ではありましたが、カウンター、ゲート、ラウンジ、VIP、オフィス、航務、さらに他職種のお仕事まで見学体験できました。業務内容はある程度把握して臨んだのですが、実際は想像していた数十倍もの業務量があることに驚き、常にメモが手放せませんでした。その中でも大変興味深かったのは、ゲート業務です。JAL スカイ大阪では、基本1人で1便を担当します。アナウンスからドアクローズの手前までを1人で完遂している姿の責任感と、担当した便を目の前で見送るという醍醐味を感じました。さらに、実際のゲートを使用したアナウンス体験では、録音したものを利用するのではなく、お客様の目の前でアナウンスすることの意味を改めて考えるきっかけとなりました。

2日間で、グランドスタッフの方々はもちろん、他にも同じJALグループとして働く社員の方々と交流の機会もあり「人」を大切にし、家族のような温かい心を持つ、というグループの理念を体感することができました。本選考に向けて「どんなに忙しくても、手先を揃えるなどの所作や笑顔、言葉遣いの美しさは忘れない」というグランドスタッフの方からの言葉を心に留め、自身に磨きをかけてまいります。

貴重な機会をくださった、JAL スカイ大阪、キャリアセンターの皆様に感謝申し上げます。

大学教授会研修会報告

—「気づき」から「築き」へ—

神戸女学院大学では毎年度、FD 活動の一環として大学教授会研修会（以下、研修会）を開催しています。2022年度は、9月13日に「リベラルアーツ教育と新たな大学改革」をテーマにして研修会を開催しました。参加者数は教員66名、職員16名の計82名でした。

午前のプログラムでは、中野敬一学長より「神戸女学院大学が目指すリベラルアーツ教育—過去から未来へ—」、立石浩一副学長・教務部長より「大学改組改革に関する現状報告」、そして株式会社マインドシェアからコミュニケーション・マーケティング事業部シニアマーケティングディレクターの西澤陽介氏をお招きして「本学在学調査アンケート結果と高校生ニーズ」というタイトルで、それぞれ報告をしていただきました。

午後のプログラムでは、9つの小グループにわかれて、午前中の報告内容を踏まえたうえで、「本学が目指すリベラルアーツ教育の特徴や魅力を高校生にどのように伝えていくか」について議論しました。

各グループからは、リベラルアーツ教育の特徴を表すキーワードとして、「コミュニケーション・対話」「多様性」「共感性」「生きる力」「専門教育を活かすリベラルアーツ」「複眼的・基督教的視野」「バランス感覚」「可能性を拓げる」「学（まなび）で遊ぼう」「アクティブ」「柔軟性」「底力」「どの山（専門性）も地下水脈でつながっている」「自由、責任、可能性」といった数多くのアイデアが報告されました。そのほか、高校生と年齢が近く、いま実際にリベラルアーツ教育を受けている在学学生と一緒に教職員がその魅力について考えるのもひとつの方法である、といった意見もありました。

今回の研修会でえられた様々な「気づき」を霧散させることなく、いかに次の段階の具体的な「築き」へと発展させられるのか、それがいま私たちの眼前にあるチャレンジです。

最後になりましたが、研修会の準備にご尽力くださった方々、そしてお忙しいなかご参加いただいた皆様に衷心よりお礼を申し上げます。

(FDセンターディレクター 金田 知子)

2022年度岡田山祭「眺見天日」

岡田山祭実行委員長

「眺見天日」をテーマに掲げた2022年度岡田山祭は、3年ぶりに対面での開催が叶いました。

「眺見天日」は、本来であれば“暗く苦しい状況から解放され、以前の明るい状況に戻る”として用いられる、「重見天日」の造語です。これには「戦争やパンデミックなどで苦しい状況に置かれている方々や私たち学生が、今の状況を乗り越え、明るい未来を眺望できるように」という強い想いが込められています。このテーマのもと、1日目はビンゴ大会や有志団体によるステージ、模擬店の他、新企画の「KC 歌うまコンテスト」を実施。2日目は俳優の犬飼貴丈さんをゲストに迎え、岡田山祭恒例のトークショーも行いました。また、両日ともに晴天に恵まれ、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

今年度は、実行委員全員が対面の岡田山祭を経験したことがなく、感染症対策も含め、ほぼ白紙の状態でのスタートでした。戸惑うことばかりでしたが、半年間、実行委員皆で知恵を絞りながら、試行錯誤を重ねてまいりました。そして、職員の皆様や顧問の先生方をはじめ、多くの方々にご協力いただいたことで、無事に岡田山祭を開催することができたと思います。ご支援ご協力賜りました学内外の全ての皆様に、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

来年度はかわいい後輩たちが、更にパワーアップした岡田山祭を作り上げてくれることと思います。来年もぜひ、岡田山祭にお越しください！



岡田山祭実行委員会 集合写真

大学クローバー賞表彰式

本年度大学クローバー賞表彰式は、3年ぶりの対面開催となりました。大学祭初日の10月21日に執り行われました。

大学クローバー賞とは神戸女学院大学に在籍する学生の課外活動を奨励することを目的とし、昨年の9月から今年の8月までの1年間において顕著な活動あるいは優秀な成績を取った団体または個人の栄誉を称えて贈られる賞です。選考は9月21日開催の連絡協議会において、連絡協議会委員と大学自治会委員の投票により行われました。

本年度はI.S.A.、ラクロス部、声劇研究会、書道部の4団体と個人2名（観世流能楽部、総合文化学科3年生とスカッシュラケット部、環境・バイオサイエンス学科2年生）が受賞されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための厳しい制限の中、それぞれの団体が学内外で精力的に活動していること等が評価されました。

表彰式は中山真美子めぐみ会会長同席のもと行われ、和氣学生部長から受賞団体の発表の後、中野学長より各団体へ表彰状と賞金が授与されました。このたび受賞された学生たちは、受賞の喜びと感謝の気持ちを語り、中野学長の課外活動への賞賛と励ましの言葉をもって表彰式を終了しました。

（学生生活支援センター課長）



大学祭での表彰式

2022年度めぐみ会賞

めぐみ会では、大学生及び中高部生徒の自主的な活動を称え、支援するため、神戸女学院の立学の精神を重んじた課外活動を行っている団体を対象とした「めぐみ会賞」を設けています。

本年度の大学受賞団体は、「聖歌隊ハンドベルクワイア」と「学生YMCA」です。「聖歌隊ハンドベルクワイア」は、学内での礼拝や行事での演奏の他、インターネット配信での演奏や他大学との交流など、コロナ禍の中で工夫して活動を続けたこと。また「学生YMCA」は、近隣の方々との交流、環境問題への取り組み、課題を持った子どもたちとの交流など、コロナ禍の中での制限がありながらも活気に溢れた活動をしてきたことが主な受賞理由です。

10月21日、3年ぶりとなった対面での岡田山祭オープニングセレモニーで、中山真美子めぐみ会会長より受賞団体へ表彰状と副賞の授与が行われました。今年のテーマ「眺見天日」にちなんで、「暗い状況が続く中、今の状況を乗り越え明るい未来を眺望できる皆さんであると信じています」と中山会長が挨拶を述べました。

2021年度中高部受賞団体は、「雫の会」と「秋の子ども会」でした。2022年度に関しては、12月に選考、1月に表彰いたします。

「めぐみ会賞」はクラブや同好会だけでなく、小さなグループも対象になります。来年度も多くのご応募をお待ちしております。

（公益社団法人神戸女学院めぐみ会

副会長 川寄 敏子）



大学祭にて中山会長より授与

<私の研究>

会話分析・子育てひろば・全国調査

戸江 哲理



社会学のなかでもコミュニケーション論と家族社会学が専門です。両者が交わる場所で研究を進めてきました。具体的には、子育てひろばという、幼い子どもと一緒に親（その多くは母親）たちがやって来て、自由に語り合い、子どもたちを遊ばせ、スタッフが企画するイベントに参加するような場所でのフィールドワークをしてきました。

最初に子育てひろばに足を踏み入れたのが2006年の5月でしたから、16年前のことになります。当時は子育てひろばの利用者で、現在はスタッフになって活躍している女性から、「娘が専門学校に入った」と聞いたときは、さすがに流れた歳月の長さを感じました。

子育てひろばでは、母親たち、スタッフ、子どもたちのやりとりをビデオカメラなどで収録させてもらい、それを主な研究のデータとしてきました。やりとりを検討する方法論は、「会話分析」というものです（コミュニケーション論が専門と述べたのは、そのためです）。会話分析は、たんに会話「の」分析を指す普通名詞ではなく、「なぜ今それを（why that now）」という、やりとりをしている人自身がつねに突きつけられている問いから、やりとりを検討する、具体的な研究のプログラムとその知見の総体を指します。…ちょっと眠くなってきましたか。

子育てひろばをフィールドとした研究を続ける一方で、数年前から全国規模での家族調査にもとづく研究にもかわりはじめました。30名あまりの学会のメンバーとチームを組んで、国内各地にお住いの老若男女100名のかたがたに、これまでの人生と今の暮らしを語ってもらうという、スケールの大きなプロジェクトでした。すでに実査は完了して、研究成果がぼちぼち出はじめているという段階です。これからが楽しみです。

(総合文化学科准教授)

<ゼミ紹介>

ヒトと女性の健康について学ぶゼミ

佐藤 友亮

健康科学研究室（佐藤ゼミ）には、4年生14名、3年生12名、大学院生1名が所属しています。扱うテーマの幅広さが、このゼミの特徴です。腫瘍学や免疫学の研究とともに、女性と健康についての調査研究を行っています。2022年度4年生は、4つのグループに分かれて卒業研究に取り組んでいます。①腫瘍班は、クロマチン制御分子 SATB1 が白血病細胞の増殖や分化に与える影響について研究しています。大学院生は麻酔科を専門とする女性医師で、この腫瘍班と関連の深いテーマで実験を行っています。学部生と社会人大学院生が協力し、お互いを刺激しながら仲良く研究しています。②免疫細胞班は、女性ホルモンがマクロファージの増殖や機能に与える影響を調べています。細胞培養実験を精力的に行い、実験結果の解釈も丁寧に行っています。③免疫班は、“Gendered Innovations（性差に基づく知的創造）”の概念を意識して、新型コロナワクチンの接種動向と副反応などに関する調査研究を行っています。また、当事者研究というアプローチで、コロナ禍での生活上の困難を浮き彫りにし、上述の調査研究とセットで、20代のコロナ禍の生活実態を明らかにしようとしています。④GH班（Gender and Health 班）は、月経とストレスの関係について多角的な研究を進めています。Ⅰ. 月経周期に伴うストレス値（唾液アミラーゼ）の変動測定、Ⅱ. 月経に関するアンケート調査（月経についての女性の身体的・社会的問題、月経についての男女の意識調査）、Ⅲ. 中高生とくに、男子生徒を対象とした月経についての教材作成、が主な活動内容です。当ゼミでは、細胞から個体レベルまで、リベラルアーツに通じる多彩な研究が活発に行われています。

(環境・バイオサイエンス学科教授)



ゼミ4年生、大学院生と理学館前にて

中高部報告

阪神ESSユニオン・シナリオリーディング・コンテストに参加して

S ESS 部長

阪神間の高校 ESS が一同に会し、それぞれが選んだシナリオのプレゼンテーションを競う阪神 ESS ユニオンシナリオリーディングコンテスト。昨年はオンラインでの開催でしたが、今年是对面での開催となり、私たち神戸女学院 S ESS も夏休み前から準備に取り掛かりました。

文化祭をはじめ、どの舞台でも毎回悩むのは演目の決定。今回も、観客の心を掴む魅力的な作品を探すのに時間をかけました。私の中では、大人気ヒット作となった『鬼滅の刃』や、顧問の先生から勧められたシェイクスピアなどの古典文学など、様々な選択肢の中でイメージを膨らませましたが、話し合いの結果、個性豊かでユニークな登場人物とファンタジックな世界観が魅力的な、『ナルニア国物語』に決めました。10分という短時間で物語を展開させるシナリオ作りは苦労しましたが、顧問の先生方に大いに助けていただきました。そして、文化祭の練習と並行して夏の終わりの本番に向けて練習を重ねました。

このコンテストは、朗読に重きが置かれているため、立ち位置から動かずに声だけで、感情や情景を表現することが求められます。先生や、部員に見てもらいながら、各登場人物の話すスピード、声のトーン、抑揚を一人一人が調整し、自信をもって本番に臨みました。当日は部員それぞれが実力を発揮し、神戸女学院の英語教育の素晴らしさを実感する優勝という結果となり、達成感を得ることができました。

兵庫県私立中学校テニス大会団体戦優勝

8月28日に甲南女子中学校会場にて、2022年度兵庫県私立中学校テニス大会団体戦が行われました。

団体戦は、順番にダブルス1-シングルス-ダブルス2の3本勝負で行われます。ダブルス1と2は申し込みの順位の2人の数字の合計が小さい方がダブルス1となります。(夏の総体はシングルス3本ダブルス2本の5本勝負です)

トーナメントに勝ち進み、準決勝で当たった相手は、前年度優勝チームの「雲雀丘学園中学校」でした。ダブルス1本とシングルスを取り2対1で勝つことができました。

決勝は「啓明学院中学校」、この試合ではダブルス2本を取ることができ2対1の結果、優勝しました。「あっぱれ!」です。テニス部員全員が優勝を喜び合いました。

新チームとして、勝ち負けよりも秋の新人戦に向け、良い経験になってくれたらと思っの試合でした。J1の1学期から上の学年とも試合形式の練習などをし、先輩の力を借り後輩たちも努力して自分たちのチームになった時に自立していきます。

「勝って驕らず、負けて腐らず」です。これからの大会も一人一人が肝に銘じてほしいのは、「いざという時に力を出すための準備が、練習である」ということです。そして、神戸女学院の代表として戦う時周りの方々のサポートへの感謝を忘れず、楽しんで頑張ってもらいたいと願っています。

(J テニス部顧問)

2022年度エンパワーメントプログラム

夏のオンライン高校生模擬裁判交流大会

高等学部 1年生

高等学部 1年生

8月13日に開催された「夏のオンライン高校生模擬裁判交流大会」において、私たち7名は優勝という形で評価していただきました。この大会では、文学作品である新美南吉の「ごんぎつね」を実際の事件に置き換え裁判を再現しました。事件の設定は、「権（ごん）という青年は、自分が悪戯で川へ返した鰻が兵十の母の好物で、死期が迫っていた彼女は鰻を食べられないまま亡くなったと知り、償いとして兵十の家に密かに食べ物運ぶようになるが、それを知らない兵十は、村で悪さばかりしている権が家に入ってきたのを見て追い払おうと火縄銃で撃ち、重傷を負わせた。」というもので、神戸女学院は兵十の弁護側を、相手校は検察側を担当しました。原作と同様、権に感情移入しがちなこの事件の裁判で兵十が殺人未遂罪に問われないよう、私たちは犯行に計画性と殺意がなかったことを軸とした台本を作りました。本番では、兵十を“悪”とし厳しく兵十に尋問する検察官と、その強い圧力に対抗し必死に自分の想いを貫こうとする兵十や弁護人による激しい議論が交わされました。終了後、審査員から弁護側がもっと異議を出すべきだったとの指摘を受けたものの、判決は殺人未遂罪ではなく執行猶予付きの業務上過失致傷罪で、勝訴を勝ち取ることができました。

この模擬裁判は、身近な文学作品を通して罪の背景にある複雑な人間の感情や事情について熟考する貴重な経験となりました。このような機会をいただいたことと、関わってくださった全ての人に感謝します。

エンパワーメントプログラムは7月25日～29日にトリニティ・ホールで開催され、46名（S1：10名、J3：33名、J2：3名）が参加しました。国内留学生である様々な国籍のリーダーが6人程のグループに1人つき、与えられたテーマについて共に考え、発表したり劇を行ったりしました。ジェンダー平等、効果的なプレゼンテーション、ポジティブシンキングなど、多種多様で答えが一つではない問題についてグループで話し合うことで自分の思考の幅が広がるのを感じました。プログラムを通して、これからの生活でも大いに生かすことのできる、自分の意見を持つことや伝えることの意義を学ぶことができました。

中学部 3年生

私はエンパワーメントプログラムに参加して、たくさんの新しい経験をすることができました。私は、学校の授業などで英語を話した経験が少しある程度で、留学生の方たちと英語で話し合いをすると聞いて、とても不安でした。実際にプログラムが始まると、グループリーダーは、私たちの考えをとっても真剣に聞いてくださいました。私が英語につまった時には、それはこういうこと？と英語で言い換えてくださり、グループワークの時には様々なアドバイスをいただきました。プログラムが終わり、修了証を貰うと達成感が胸がいっぱいになりました。私はこのプログラムを通して、自分の性格や将来について考え、たくさん新たな発見をすることができました。

2022年度 中高校教職員研修会 報告

去る8月23日に2022年度中高校教職員研修会が行われました。参加者全員が8時50分にコム・ホールに集合し、開会礼拝、中高校長による開会挨拶から研修会が始まりました。

全体会

1. 夏休み中の行事報告

リーダーシップトレーニングキャンプ、エンパワメントプログラム、リベラルアーツプログラム長島・広島の3つの行事について、それぞれの担当教員から報告がありました。

2. 学校評価委員会より

2022年7月に実施した生徒対象および保護者対象の学校評価アンケートの集計結果が報告されました。生徒・保護者の回答結果を教職員全体で共有し、今後改善すべき点や対応が必要な点などについて確認しました。

3. ICT推進委員会より

来年度からのタブレット導入に向けて検討を進めているICT推進委員会より、「生徒一人一台のタブレット導入に向けて」と題して、タブレットの活用の仕方、機種選定の経過報告、通信環境の整備、導入するにあたって留意すべき点等についての説明が行われました。説明後は質疑応答の時間が設けられ、今後検討すべき事柄や議論を深める必要がある点等について、活発に意見交換しました。

10時50分からは、教員と職員は分かれて、それぞれで研修の時をもちました。

教員対象研修会

教員研修では、デジタル採点システムの導入を検討するにあたり、業者2社をお招きし、それぞれのシステムの紹介をしていただきました。いずれの会社のシステムも多くの学校で導入されているとあって、採点業務軽減に非常に有効であると感じました。無料体験版のご提案もいただきましたので、今後の導入に向けて教務課を中心に検討が進められる予定です。

職員対象研修会

職員研修では、2024年度入試から導入予定のインターネット出願サービスについての研修を行いました。インターネット出願は、出願する受験生やその保護者にとって利便性が高いことに加えて、学校の入試業務も軽減できるシステムであると言われていきます。今回は改めて提供会社から基本説明とオプションも併せてご説明いただき、入試の出願から入学手続きに至るまでに必要な書類と作業工程についてさらに詳細を確認をする機会となりました。このシステムを導入することで、データ入力や関係書類の印刷、発送といった入試業務が軽減・効率化されるのではないかと思います。

全体実習

13時45分からは再び教職員が集合し、ITセンターでICT実習を行いました。前半は、基本的なICT操作を習得することを目的として、研修会係より動画編集・音声認識による文書作成・差し込みメール送信といった操作について、実演を交えながら説明を行いました。引き続きICT推進委員によるICT技術を用いた授業実践例(英語・国語・家庭科)の報告を聞き、実習を行いました。ICT技術を積極的に活用している教員から実践例を報告してもらい、共有できたことは、多くの教員にとってタブレット導入後の授業のイメージをつかむための良い機会となったのではないかと思います。

今年度の研修会は、来年度からのタブレット導入を見据え、「ICT」「デジタル」をキーワードとして研修を行いました。スムーズなタブレットの導入のためには、まずは教職員がICT教育に関する知識と理解を深めておくことが不可欠です。今回の研修会は、そのことを改めて認識できた良い機会となりました。中高校では、今後も引き続きICT推進委員会を中心として、タブレットやICTの導入に向けて入念に準備を進めていく予定です。

(教職員研修会係)

2022年度中高部受入れ留学生

本年度は5月末から AFS の留学生 2 名が来ました。1 名はイタリアからの留学生で、半年間 S2C に在籍し、10月に帰国しました。何事にも積極的に、バレーボール部に所属し、毎日楽しく過ごしていました。彼女は新型コロナウイルス感染症の影響で、来日を待たなければならず、期間は短縮になりましたが、日本での生活を思い切り楽しんで帰国の途につきました。もう 1 名はチェコからの留学生で、S2A に所属し、2 月まで神戸女学院で過ごします。今では日本語でのコミュニケーションもずいぶん上達しました。修学旅行にも参加し、友人もたくさんできたと言っています。彼女もバレーボール部に所属し、他の生徒たちと一緒に汗を流しています。

また、4 月から 7 月まで、KCC-JEE 理事の Dr. Cindi Sturtz Sreetharan が訪問研究員として神戸女学院大学に来られていた関係で、お嬢様を受け入れました。J2C に在籍し、彼女もバレーボール部に入りました。1 学期のいろいろな行事にも参加して、日本の学校生活を満喫しました。

コロナ禍でイレギュラーな形で留学生を受け入れることが続きましたが、徐々に交流も戻りつつあります。留学生を通し、異文化に出会い、お互いに刺激を与えながら、新たな学びを得ています。

(中高部教務課 留学生係)

芸術鑑賞会

今年度の芸術鑑賞会は、9 月 26 日 13 時 30 分より、西宮市民会館（アミティ・ベイコムホール）にて六代豊竹呂太夫氏企画・出演による人形浄瑠璃「ゴスペル・イン文楽～イエスの生涯と十字架～」を鑑賞しました。

本校では総合学習の一環として、中学 2 年生が例年国立文楽劇場で文楽を鑑賞していますが、今回の演目はまさにミッションスクールとして日々の礼拝や聖書の学びの中で語られるイエスの生涯を描いた作品であり、聖句や讃美歌とはまた異なった形で生徒たちの胸に迫力をもって響いたことと思います。特に太夫によるその全身から発せられるドラマチックな語りと太棹の空気を震わす力強い音色は、イエスの苦悩する内面の表現手法として実にふさわしいものだと実感しました。

この中高部の芸術鑑賞会は 3 年ぶりに J・S 合同で行われました。この 3 年、コロナ禍のもとで誰もがマスクを着用し、互いの距離感を意識しながら日々の生活を送っています。現在在籍している中学の生徒は、入学時よりマスク越しに友人たちと接しています。マスクはそれぞれの表情と共にその本音をも覆い隠してしまいます。それに比べ、人形の表情はシンプルでありながらとても雄弁です。人形遣いの意志を伝えて余りある豊かな人形たちの存在に、今私たちが失いつつある人と人との生身の関わりのあるべき原型を見ることができたと思います。

(中高部教諭)

S 校内大会

2022年度のS校内大会は、7月8日に実施されました。種目は例年通り、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、卓球、リレーの5種目で、全学年クラス対抗戦です。どの種目も、下剋上を狙う下級生とそうはさせまいとする上級生との“仁義なき戦い”や、同級生同士の白熱した試合がとても印象に残っています。

天候にも恵まれ、昨年に行くことができなかった決勝リーグも行うことができ、例年にも勝るとも劣らない盛り上がりを見せていたと思います。総合優勝はS3Aが勝ち取り、さすがの貫録を見せましたが、リレーではS2、S1が優勝する結果となりました。

来年度は制限がなくなり、その場でクラスメイト応援もできるようになることを願うばかりです。

総合

1位 S3A 2位 S3B 3位 S3C

(S体育部顧問)

J 校内大会

2022年度J校内大会が7月11日に行われました。実施種目はドッジボール、卓球、リレーです。各種目フェアプレーの精神のもと熱戦が繰り広げられ勝敗に関わらず皆が楽しんでいる姿が印象的な校内大会となりました。試合結果は以下の通りです。

ドッジボール a	ドッジボール b
優勝 J 3 A	優勝 J 3 B
2位 J 2 A	2位 J 3 C
3位 J 2 B	3位 J 2 A

卓球 a	卓球 b
優勝 J 3 A	優勝 J 3 B
2位 J 2 A	2位 J 1 A
3位 J 2 C	3位 J 3 C

リレー

優勝 J 3 B
2位 J 2 A
3位 J 2 C

総合成績	ブービー賞
優勝 J 3 B	J 1 B J 1 C
2位 J 2 A	
3位 J 3 A	

(J体育部顧問)

リベラル・アーツプログラム（長島・広島）

7月27日、28日に中高部コムホールにて、リベラルアーツ・プログラムを開催しました。当初は、現地を訪れるつもりで準備を進めておりましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となったために、岡田山キャンパスでの代替プログラムとなりました。

7月27日は長島愛生園訪問の代替プログラムを実施しました（参加生徒：26名）。午前中は、「隔離」という言葉について話し合った後に、動画でハンセン病の歴史を学びました。神戸女学院大学の奥野佐矢子先生（文学部・総合文化学科）にも同席いただき、助言をいただきました。午後は、愛生園の学芸員の方に園内バーチャルツアーを実施していただきました。このツアーでは、これまでの訪問では見学できなかった施設についても知ることができ、愛生園の歴史や入所者の思いについても、詳しく聞かせていただくことができました。

7月28日は広島訪問の代替プログラムを実施しました（参加生徒：15名）。午前中は、広義の「平和」について生徒同士で話し合いました。午後からは、広島女学院の署名実行委員会の皆さんとオンラインでの交流会を実施しました。開会礼拝、両校のプレゼンテーションの後、質疑応答の時間を持ちました。生徒たちは、オンラインでも伝わりやすいような工夫をし、活発な議論を交わしていました。

初めての形でしたが、2日間とも実りの多い時間になりました。

次年度以降も、よりよい形を模索してゆきたいと考えています。

（中高部チャブレン）

リーダーシップトレーニングキャンプ

7月21日から23日にかけて、中高部内でリーダーシップトレーニングキャンプを行いました。

中高部では、毎年4月に新入生を歓迎するJ1デイキャンプを行います。リーダーシップトレーニングキャンプは、J1デイキャンプに向けリーダーシップとは何かを考える為にメンバー同士で話し合ったり共同作業をしたりすること、またJ1デイキャンプで行う学内オリエンテーションやレクリエーションの試行的な役割を担っています。神戸女学院中高部の校風を新入生に受け継ぐ役割ということで生徒からの人気が高く、J2からS2の希望者のうちから抽選で選ばれた50名が参加することとなりました。引率教員は5名でした。

予定では西宮市立山東自然の家で行うことになっておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染者数の急激な増加に伴い、実施1週間前に急遽学内での実施となりました。コロナ禍から2年が経ち、少しずつ以前の生活に戻りつつある中でコロナ禍前の神戸女学院中高部の校風を取り戻そうと努力を重ねてきましたが、もう少し時間が必要になりそうです。リーダーシップトレーニングキャンプ開催に際しご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

（ディレクター）

2022年度中高部文化祭

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年度の文化祭は、期間短縮の上校内生のみ公開のものとなりました。また2021年度の文化祭も、一般公開が画策されたものの、直前に一般公開の中止が決まり、またしても校内生のみ文化祭になってしまいました。2021年の10月後半から動き始めた2022年度文化祭の企画は、当然一般公開を目指して活動が始まりましたが、J1・J2の2学年が一般の方が入っていた頃を知らない、またそれより上の学年も2年間一般の方を入れる経験を積み重ねていない状態でのスタートとなりました。文化祭企画実行委員会（以下文企）幹部を中心にそれぞれの部署で過去からの引き継ぎが行われてきたものの、文企幹部ですら一般の方が入っていた時期はJ3までであり、S1・S2の2年間は一般公開から遠ざかっています。この状態で一般の方を入れる方策を構築していくことは、とても大変だったろうと今更ながらに思います。

2022年度に入ってからの中高部の学校行事も、2020年度、2021年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け続け、春の遠足が中止になったり、体育祭も保護者の観覧を目指したものの最終的には校内生のみ公開という形で行わざるを得なくなったり、修学旅行等も日程や目的地が大きく制約されてしまいました。また日々の学校生活でも、礼拝で讃美歌を合唱することができないという異常状態が今日まで続いています。このような日々を過ごす中、今年度は本当に文化祭の一般公開ができるのか、常にその疑念を抱えながらの文化祭準備となりました。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中で一般の方に来校していただくのであれば、これまでの文化祭では必要のなかった一般客に対する感染症対策のための様々な手段を考え、実施していかなければなりません。

まず、構内で生徒・保護者・一般客の方々が密になりすぎないように、ステージや展示等に入れる人数を考えて、構内に入っただけができる来校者の人数を割り出しました。また、この人数に見合うように来校者数を制限するために、事前予約制

をとって抽選で入構者を選ぶことにしました。更に、来校者様には構内で半日過ごしていただければ十分見たいものを見ていただけるだろうという判断から、午前の部・午後の部に分けて、そのどちらかに来ていただくことにしました。2部制にしたことで、時間の制限はしつつもより多くの方に来校していただくことが可能になりました。感染症対策の観点からは食事や飲料の提供には非常に多くのハードルがあるのですが、滞在時間を半日にしたことによって、飲食の提供をごく限られたものに絞ることができ、飲食に伴う感染症対策の管理がしやすくなりました。また保護者様については、2名までは抽選なしで入構していただける保護者枠を設け、それより多くいらっしゃるご家族の方がいる場合には、3名目からは一般枠に応募していただいて、一般客の方と合わせて抽選することにしました。

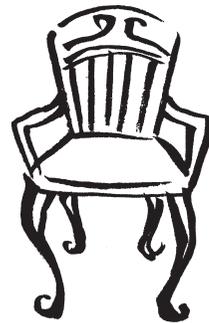
講堂ステージの演目は、従来は自由に入入りして観覧していただけたのですが、感染症対策の観点から座席を1つおきにお使いいただくようにしました。また、どの演目をどの席で観覧されたかということの後で確認できるようにしておく必要があるもので、事前予約の際に観覧したい演目を選んでいただき、抽選で当選者を選んで指定席を割り当てた上で、その席をお知らせすることにしました。未就学児は入構人数としてはカウントしないのですが、講堂座席の割り当てでは未就学児を連れた方同士が重ならないよう、事前予約の時点でお連れになる未就学児の人数まで確認し、それを考慮した上で座席の割り当てを行いました。また、ステージに生徒が出演する保護者様がその観覧を希望される場合には、極力観覧していただけるよう配慮しました。ただし、申し込み方法が複雑になってしまったために、結果としてステージに出るお嬢様を見ていただくことができないケースも生じてしまい、その点は大変申し訳なく思っています。

今年度の文化祭は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中で一般公開となったため、このような今まで経験したことのないやり方を構築していかなければなりませんでした。私自身は正直気の遠くなるような思いがしていたのですが、文企幹部の生

徒たちが中心となって議論し、このような対策を考えて、必要な手筈を整えてくれました。彼女たちの頑張りには頭が下がります。直前まで（今年は本当に一般公開できるのだろうか）と心配し続けましたが、9月9日に校内用文化祭、そして9月10日によいよ校外用文化祭を迎えることができました。久しぶりに構内にいらした保護者様や一般客の方々の表情を見ると、とても楽しんでいらっしゃる感じが感じられました。また、校外からお客様が入ったことによってか、生徒たちの表情もとても生き生きとしていて、自分たちの役割を楽しんでいるように感じられました。失敗や反省、後進に伝えなければならない課題もいろいろ発生しましたが、これだけ生徒たちが元気になれる、そういう機会を一つ取り戻すことができたことには大きな意義があったと思います。

今回、事前申し込みのフォーム構築に関しては中高部 IT センターに並々ならぬご尽力をいただきました。また、施設課の皆様にはこちらから適切なタイミングでご連絡をすることができなかつた中、過去の事例を元に必要なことを判断していろいろ先回りして手配していただく等、たくさんお助けいただきました。更に、校外用文化祭のエンディング終了時間がかなり押したのですが、警備の皆様には最後まで見守っていただくご配慮をいただきました。他にも文字通り数えきれない、ここには挙げきれないほど多くの方々のご配慮・ご助力によって、何とか2022年度の文化祭を形にすることができました。ここに厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

(2022年度文化祭企画実行委員会顧問)



J1 秋の遠足

1日雨の予報の中、7時50分に西宮北口に集合し、バス4台で徳島県鳴門市に向けて出発しました。阪神高速神戸線に乗ってすぐ事故渋滞に巻き込まれ、1時間遅れでの到着となりました。大鳴門橋でも雨足は強いままでしたが、屋根のある架橋記念館の遊歩道からは渦潮が豪快に巻く様子を間近に見ることができました。時間が押していたため昼食もゆっくりとれませんでしたが、徳島や淡路島の特産(鯛のお刺身やレンコンの天ぷら、鳴門金時など)が入ったお弁当に生徒たちも顔をほころばせておりました。

午後からは大塚国際美術館に足を運び、陶器で作られた本物そっくりの世界の絵画を鑑賞しました。事前にグループごとに一つの絵画に注目して調べ学習をしていましたので、その絵画の前では細部まで目を凝らして絵に見入っておりました。昨今のコロナ禍で海外旅行にもなかなか自由に行けない中、レプリカとはいえ国内にいながら一カ所に集められた名画を鑑賞できたことは貴重な経験になったことと思います。

帰路は途中淡路ハイウェイオアシスに寄ってお土産を購入したり、淡路島の牛乳を使ったソフトクリームを食べたり、各々最後のひとときを楽しみました。行きの遅れが解消しないまま到着も遅くなりましたが、「このままバスに乗っていたい！まだ帰りたくない！」と名残惜しそうに車内で話す生徒もおりました。引率は教員7名でした。

(J1D担任)

J2 秋の遠足報告

J2は秋の遠足で、午前中に神戸教会訪問と校祖墓参として学校のルーツを巡り、午後からは丹波篠山巡りと丹波焼の陶芸体験を行いました。参加生徒は145名、付き添い教員6名、名鉄観光から添乗員1名でした。

まず、神戸女学院と深いつながりのある日本キリスト教団神戸教会に集合し、礼拝をまもらしました。新型コロナウイルス感染症の影響もあって、入学以来、神戸教会や校祖墓参の機会がないまま過ぎてきましたが、J2の秋の遠足の機会に、改めて神戸女学院に入学し、創立者たちの思いを確認する時が与えられました。

六甲山再度公園の神戸市立外国人墓地を訪れ、タルカット先生のお墓を前に、墓碑に刻まれた「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイによる福音書25章21節)という御言葉を吟味しながら、献花を捧げ、主の祈りを皆で合わせて献げました。

昼食は旬をむかえた丹波の黒豆を堪能した後、篠山城下町へ。黒豆解禁に重なり、観光で賑わう街を思い思いに散策しました。

その後、日本六古窯のひとつである丹波立杭焼の陶芸体験を行うため、窯元やまのへ向かいました。職人さんによる実演も大いに盛り上がり、それぞれ集中して創作に取り組みました。

この秋の遠足が、生徒たちの豊かな交わりと学びの時となるだけでなく、J最高学年に向けての自覚と成長を育む時となりましたことを、報告申し上げます。

(J2学年主任)

J3 小旅行

2022年10月5～7日の2泊3日の行程で小旅行に行っていました。行先は1日目に福井の恐竜博物館と東尋坊、2日目は石川県金沢市内散策、3日目は岐阜県高山市内散策です。

1日目の恐竜博物館では生徒たちは配られたパンフレット片手に熱心に展示を見ていました。東尋坊では、風のきつい断崖絶壁の上で多少のスリルと波しぶきの激しさにみな興奮しながら絶景を満喫していたと思います。宿泊する旅館に到着してからは、金沢の歴史についての講演会を聴いた後、豪華な夕食を堪能しました。

2日目の金沢市内では各班に分かれて自主研修に向かいました。それぞれにしっかりと計画を練っており、充実した時間を過ごせたようです。宿泊するホテルに到着してからは、夕食としてマナー講習も行いながらコース料理を食べました。その後は、高山市の伝統的な人形であるさるぼぼ作りも体験しました。悪戦苦闘しながら、笑いの絶えない作業となりました。

3日目の高山市内散策も各班での自主研修です。あいにくの雨でしたが、それぞれが楽しんでくれたと思います。

この学年にとって初めての宿泊行事で、引率するほうとしてもあれこれと案じていましたが、お互いがお互いの為に、守るべきことは守り、楽しむときは楽しむ。引率した教員一同が生徒たちの自律した姿に感心しております。

(J3C担任)

幻想的な天橋立

S1学年は、10月6日、7日に但馬・丹波方面へ一泊研修旅行に行きました。

1日目は出石で自由行動をしました。朝から肌寒い気候でしたが、お昼頃にはちょうど良い気温となり、生徒たちは浴衣のレンタルをしたり、アイスを食べたりと自由に楽しんでいました。

午後はホテルで話し合いのプログラムを行いました。話し合いに先立ち、刺賀教諭より発題のお話をしていただきました。異人種間の結婚やジェンダーのことなど、ご自身の体験も踏まえたお話に、生徒たちは真剣に耳を傾け、話し合いも充実したものとなりました。「生まれ変わるなら男の子の子」「恋愛の多様性」の2つの題に基づいてそれぞれ45分の話し合いをしました。

夕食後、レクリエーションが行われました。今年はライブでの発表と映像での発表のハイブリッドで行いました。生徒たちが協力して何とか時間通りに終われるように頑張っていたのが印象的でした。

2日目は、朝から冷たい雨が降っており天橋立は幻想的な姿で日本海に延びていました。伊根湾での遊覧船ではよい天気の中、多くの生徒がデッキに出て海鳥に餌をやりながらはしゃいでいました。

旅行中、生徒たちが集合時間をきちんと守っていることが印象的でした。おかげですべてのプログラムが順調に行われました。

引率は教員7名でした。

(S1学年主任)

S2 修学旅行報告

10月5日から8日まで、3泊4日で滋賀方面へ行ってきました。1日目は長浜で昼食をいただき、午後は黒壁スクエアなどを自由に散策しました。その後彦根城へ向かい、ひこにゃんの撮影や、天守閣や博物館などの見学をしました。ホテルでは夕食後、各部屋や館内の温泉を楽しめたようです。2日目は午前中三井寺を見学し、昼は豪華客船ピアンカを貸し切ったのピュッフェを楽しみました。午後は琵琶湖博物館に行き、琵琶湖の成り立ちや、周辺の生態環境について学びました。3日目はブルームの丘で各々園内を自由に散策し、屋外型アトラクションを楽しんだり、動物と触れ合ったりしました。その後、信楽のたぬき村で、たぬきの絵つけや手びねりを体験しました。夜はホテルでレクリエーションを行い、大いに盛り上がりました。4日目はたねやの施設であるラ・コリーナに開店と同時に行き、お土産を購入したり施設内を散策したりして楽しみました。午後は2グループに分かれて水郷めぐりと近江八幡市街散策をしました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で急遽行き先が変更となりましたが、今まで知らなかった滋賀県の魅力を発見することができました。修学旅行実施にご尽力くださった皆様に感謝いたします。

参加生徒は143名。引率は教員7名と添乗員3名、看護師2名でした。

(S2B担任)

S3 秋の遠足

10月7日、S3生徒145名と教員6名はS3の遠足として、有馬温泉で秋の一日を過ごしました。

あいにくの雨の中、10時30分に神戸電鉄有馬温泉駅で点呼をとり、それぞれに自由散策に向かいました(予定されていた学年全体写真は雨天中止となりました)。温泉街で足湯やスイーツを楽しむ生徒、ひと足早く昼食会場となる兵衛向陽閣でゆったり温泉に入る生徒など、めいめいに約1時間半を有意義に過ごしたのち、12時15分より全員で礼拝をまもり、その後懐石料理を美味しくいただきました。300人収容の大広間に150人がゆとりをもって座り、黙食が基本の静かな食事でしたが、それだけに一人ひとりが秋の味覚をじっくりと味わう時間を持つことができました。食事の後は会場でクラス写真を撮り、ひとまず解散したのち、温泉や散策など午後のひとときを楽しみました。

このS3は昨年度の修学旅行では兵庫県内のコースを回り、コロナ禍の影響を大きく受けました。それは遠足行事のみならず体育祭や文化祭の中心学年としても、行事を企画、運営する立場として多くの中止や変更を余儀なくされながらも、限られた条件の下、何とか充実した時を楽しもう、そして友人や他学年に楽しんでもらおうと必死に取り組んできました。そうして過ごしてきた高校生活最後の行事として、癒しの日となったならば幸いです。

(S3学年主任)

2022年度中高部キャンパス見学会

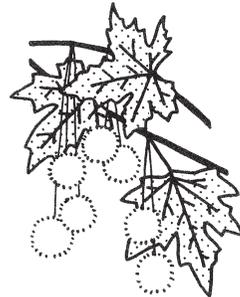
今年度のキャンパス見学会は、新型コロナウイルス感染症の状況が見通せないことにも鑑み、昨年度と同様の形（事前申し込みによる入場制限と学校内での滞在時間の限定）で11月5日と26日の2日間にわけて実施しました。

来校いただいた皆様にはまず講堂にお入りいただき①礼拝②中高部長からの教育方針説明③学校生活の様子を紹介したビデオの視聴④中高部チャプレン講話「神戸女学院の自由～「根っこ」と「翼」を併せ持つ者～」⑤在校生による英語スピーチ⑥歓迎合唱または演奏（コーラス部またはギター部による）のプログラムにご参加いただきました。その後、20名程度の小グループに分かれてキャンパスツアー（学内ツアー）にご参加いただきました。

今年度のキャンパス見学会の特徴は、昨年度は控えておりました在校生による発表やツアーの案内などを実施し、在校生の様子を来校者にご覧いただけるようにした点です。講堂内で行いました英語スピーチ、コーラス部の合唱、ギター部の演奏では、来場された皆様から大きな拍手をいただきました。またキャンパスツアーの案内生徒も、来校者に少しでも学校のことを知っていただき、楽しんでいただきたいという思いをこめて取り組んでくれたようで、来校者には充実したキャンパスツアーを体験していただきました。来校された小学生にとっては「憧れのかっこいいお姉さんの姿」を見てもらえる機会にもなったのではないかと感じています。手伝い生徒の皆さんに感謝申し上げるとともに、本校に興味を持って来校くださった皆様にも感謝申し上げます。

来校者数は11月5日は411組830名、11月26日は389組785名でした。特に11月26日は、来場申し込みをされたお嬢様の小学校が学級閉鎖になられたために来場がかなわなくなった、という残念なお知らせをお聞きすることもあり、新型コロナウイルス感染症の影響が根強く残っていることを感じさせられる面もありました。

（校務課長）



<課外活動紹介>

[クラブ]

J演劇研究部**青春するならJ劇研!**

私たちの1年は4月の「新入生歓迎会」、9月の「文化祭」、12月の「もみの木の集い」、3月の「J3送別会」と年4回の大きな舞台を中心に回っています。舞台は脚本のオーディションから始まって、一から作り上げていきます。熱い思いから意見がぶつかることもあります。皆で話し合い、練習を重ねた舞台が成功した時の喜びは格別です。舞台がないときにも「台詞集」を読みあったり、与えられたテーマで即興劇を作ったり、笑いの絶えない明るいクラブです。青春するならJ劇研!

(J演劇研究部顧問)

[クラブ]

J書道部

J書道部はJ1からJ3まで計5名で週に2回活動しています。練習中は一切雑談をせず、集中してそれぞれの課題に取り組んでいます。普段の喧噪から離れ、静謐な空間に身を置くことで心穏やかに作品に向き合っています。今夏、合宿はできませんでしたが、岡田山ロッジで3日間に及ぶ集中練習会を行い、技術を高めました。年に4回様々な競書大会に出品してそこで賞をいただくなど、成果も上げています。

(書道部顧問)



[クラブ] **S料理研究部紹介**

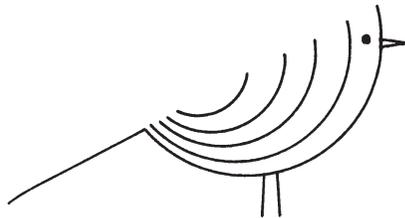
S料理研究部 部長

S料理研究部の活動は部員で作るものを決め、材料やレシピなども用意することで自主性を育み、皆で協力して料理をするという楽しみを学べる場です。感染症対策のため部活で調理ができなかった時期もありましたが、今年は2年ぶりに文化祭で調理・販売を行いました。何度も試作し、練習を重ねたマドレーヌをお客様に喜んで食べていただくことができました。今、協力して料理を作り、皆で美味しくいただけることに感謝して、これからも部活を頑張っていきたいです。

[クラブ] **Sバドミントン部**

Sバドミントン部 部長

Sバドミントン部は水、木、土曜日の週3日、GⅡ 2階で活動しています。春夏にある公式戦や、地域の大会、他校との練習試合に向けてそれぞれが自分の課題と向き合い、レベルを上げられるよう日々練習に励んでいます。顧問の先生やコーチに教えていただいた練習法を参考にしながら、自分たちで季節に合わせたメニューを組み活動しています。部員同士がアドバイスをし合えるアットホームな雰囲気です。



〈学院日誌〉

8月7日(日)	オープンキャンパス	10月29日(土)	愛校バザー
8月31日(水)	中高部教員会議	11月2日(水)	中高部教員会議
9月9日(金)	中高部文化祭 (校内用)	11月5日(土)	中高部キャンパス見学会①
9月10日(土)	中高部文化祭 (校外用) ※完全予約制で実施	11月16日(水)	中高部教員会議
9月14日(水)	中高部教員会議	11月18日(金)	教授会
9月25日(日)	オープンキャンパス	11月23日(水・祝)	保護者会
9月27日(火)	中学部入試説明会 ※オンライン視聴サービス 9月30日(金) 15:00~10月13日(木) 10:00	11月25日(金)	合否判定教授会
9月28日(水)	理事会 中高部教員会議	11月26日(土)	中高部キャンパス見学会②
10月1日(土)	重要文化財神戸女学院特別見学会	11月30日(水)	理事会 中高部教員会議
10月4日(火)~7日(金)	高等学部修学旅行	12月2日(金)	合否判定教授会
10月5日(水)~7日(金)	中学部小旅行	12月3日(土)	2021年度ご寄付者対象 神戸女学院教育振興会クリスマスの集い
10月11日(火)	中高部教員会議	12月7日(水)	中高部教員会議
10月14日(金)	合否判定教授会	12月11日(日)	オープンキャンパス
10月19日(水)	第3回中高部長候補者選考委員会	12月16日(金)	教授会
10月21日(金)	教授会	12月20日(火)	中高部教員会議
10月26日(水)	中高部教員会議 理事会 臨時評議員会 臨時理事会	12月21日(水)	理事会

目

善い業を行いたい	1
KCC だより	3
愛校バザー報告	4
重要文化財 神戸女学院特別見学会	4
創立150周年を記念して「ユニバーサルマナープログラム」を導入	5
学院リトリート	5
宗教強調週間 プログラム報告	6
留学報告	8
史料室の窓・めぐみ会、130年のあゆみ	10
事務室探訪	11
大学報告	
奥村ゼミ生考案メニューでSDGsに貢献	12
朝日親子と子の自然環境教室を本学で開催	12
図書館本館展示「松岡享子展」開催について	13
2024年度国際学部・心理学部設置構想中	13
派遣留学報告	14
夏期語学研修報告	15
受入留学生報告	16
音楽学部夏期講習会報告	17
夏期インターンシップ実施報告	18
インターンシップ参加報告	18
大学教授会研修会報告	19
2022年度岡田山祭「眺見天日」	19
大学クローバー賞表彰式	20
2022年度めぐみ会賞	20

次

私の研究	21
ゼミ紹介	21
中高部報告	
阪神ESSユニオン・シナリオリーディング・コンテストに参加して	22
兵庫県私立中学校テニス大会団体戦優勝	22
夏のオンライン高校生模擬裁判交流大会	23
2022年度エンバワメントプログラム	23
2022年度 中高部教職員研修会 報告	24
2022年度中高部受入れ留学生	25
芸術鑑賞会	25
S 校内大会	26
J 校内大会	26
リベラル・アーツプログラム	27
リーダーシップトレーニングキャンプ	27
2022年度中高部文化祭	28
J 1 秋の遠足	30
J 2 秋の遠足報告	30
J 3 小旅行	31
幻想的な天橋立	31
S 2 修学旅行報告	32
S 3 秋の遠足	32
2022年度中高部キャンパス見学会	33
課外活動紹介	34
学院日誌	36

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。